

2016 年度 第 3 回 O P 協会理事会議事録

日本 OP 第 5-16-5 号

日時 : 平成 28 年 3 月 12 日 (土) 10:30~17:30

場所 : フォーシーズ会議室

参加者 : 田中理事長、矢野副理事長、荒川理事、青野理事、中村理事、山田理事、花田理事、
服部理事、高山理事、岡田理事、秋山監事、檜皮監事 (順不同)

欠席者 : 須河内理事、西村理事、松尾理事

議事録作成 : 岡田、確認者 : 山田理事 (東日本)、青野理事 (西日本)

【挨拶】

議事に先立ち、田中理事長から挨拶があり、上記議事録作成者と確認者を決定し、田中理事長を議長として審議を実施した。

審議事項

議題 1 全国加盟団体代表者連絡会議 田中理事長より参加報告

- (1) 内容 平成 28 年 1 月 23 日 開催地 岸記念体育館
- ・全国県連、クラス協会等の理事、評議員が参加し、JSAF の理事選出やクラス協会の報告、JSAF への要望等の会議が開催された。有意義な会議であった。

議題 2 計測委員会 荒川理事

- (1) JSAF 計測委員会参加の報告 平成 28 年 2 月 16 日 開催地 葉山港
- ・資格取得を伴うものがセミナー、講習に関する勉強会をクリニックと称して開催。
ODC 計測委員会 (ワンデザイン) の内容報告があった。また、計測員の資格取得方法や内容について協議されたとの報告があった。
- (2) 計測講習会のスケジュール 平成 28 年 4 月 29 日、30 日江の島にて
- ・各地スケジュール調整により、上記の関水連レースに合わせて開催を予定。OP 経験の浅い保護者を対象に OP 協会理事、現地関係者の協力得て解りやすい説明としたい。
 - ・クリニックの趣旨、公式計測員、準計測員向けメニューを考えて行い、JSAF 共同にて開催する。
 - ・檜皮監事より共同開催や参加人数が予想しにくい部分があるが、予算書作成と実績報告を理事会報告するように指示があり、実施することとした。
- (3) 海外レースへの計測員参加
- ・荒川理事はワールド (ポーランド) 南アフリカ選手権 (アンゴラ) へ参加予定。宇田川さんも海外レースへの参加を検討中。
- (4) セールボタン 田中理事

- ・購入は輸入時の為替レートに連動するため、国内セール販売会社への販売価格について議題提案があった。
 - ・仕入時の為替レートにより単価が変動し、国内向け定価が購入価格を下回することは問題。反面 OP セールの販売代金に反映するため大幅価格アップも問題がある。
 - ・仕入時の為替レートにより在庫の販売価格を決定し、在庫の入替時見直すこととした。
- (5) 福岡計測センターについて 田中理事
- ・大原さんのご逝去により福岡計測センターは閉鎖することとする。
 - ・西日本地区は広島計測センターが開設されたので、当面の計測対応は可能。

議題 3 レース委員会 花田理事

- (1) JODA 主催レース
- ・各大会のスケジュール報告があり、理事への協力要請があった。
 - ・福岡 OP 全日本大会の状況、同時開催の総会日程を協議し総会は 11/5 を予定する。
- 【第 3 4 回東日本オブティミスト級セーリング選手権大会】2015/8/26~28: 葉山港 (予定)
- 【第 3 9 回西日本オブティミスト級セーリング選手権大会】2016/8/19~21: 唐津
- 【第 3 2 回全日本オブティミスト級チームレース選手権大会】2016/10/8~10: 広島観音
- 【第 4 9 回全日本 O オブティミスト級セーリング選手権大会】2016/11/3~6: 福岡小戸
- ・2017 年最終選考会は 3 月末締切にて募集中。
- (2) 大会枠の状況 中村理事
- ・大会枠取得状況の報告と申請状況の報告があった。
- (3) OP 全日本のゴールド・シルバーの 2 フリート検討
- ・荒川理事より海外では上記レース方式が主流で他クラスでも多く採用されていることから、OP 全日本大会での採用検討提案があった。
 - ・参加艇数が多い場合は、主流レース方式となっていることは事実。
 - ・レース方式の変更による参加選手への影響、運営の対応を検討した結果、風の影響による順位でクラス分け時に不公平感がないか等意見があったものの、シルバークラスでの表彰や優秀選手選出、レベルの高いレース方式などメリットが多いと判断し、2016 年福岡 OP 全日本大会から適用することで決定した。

議題 4 強化・海外派遣委員会 岡田

- (1) 2016NT 準備状況報告
- ・各チームの申し込み状況、HP 状況、役員選出状況の報告があった。
 - ・選考会での内定について、NOR 発表後の内定に統一して行うこととした。
 - ・北米選手権およびヨーロッパ 1 名追加エントリーは、3/15 エントリー締切後に現地大会本部での検討となる。両大会本部と連絡を取り、NT 合宿に間に合うようにエントリーを進めていくこととする。

(3) NT 合宿の準部状況

- ・実施要項の確認、同意書の提出、予算報告を行った。予算を精査し、実施報告を理事会に行うこととした。
- ・合宿の内容について、練習メニューは召集コーチ（ノースセール白石氏）と協議。近年の海外レースでの状況をお知らせし、技術的な部分は白石コーチとメニューを協議する。
- ・練習メニュー以外の項目、フラッグ作成、アイスブレイクなどの合宿のしおりを検討することとした。

(4) OP 級アジア選手権の強化について

- ・アジア大会（4年に1回）やアジアセーリングチャンピオンシップ（2年に1回）大会へのOP級出場は、OPワールドとアジアでの上位入賞が有効であり、強化のため海外派遣選手の重複（ワールド選手のアジア一部重複など）も検討したかどうか。
- ・派遣選手強化は、重複派遣で可能になるものではなく、日常の練習や合同練習開催、レースのレベルアップなど海外派遣選手の選定方法とは違う部分あると思われる。
- ・「強化」と「多くの選手に海外レース経験をさせたい」とのどちらの方針を目指すかの議論となる部分もあり、NT選考・派遣方法については各理事にて検討し、次回理事会での継続議案とすることとした。

議題 5 普及・育成委員会 青野理事、服部理事

(1) HP の充実方法について

- ・Web関係の専門業者にボランティアで現在のJODAホームページを見てもらい、各種の指摘を頂いた。
- ・JODA ホームページに各地域のクラブやヨット活動を行っているクラブなどをリンクする、トップページの工夫、記載する写真、レース結果の広報など工夫の余地がある。
- ・トップページの更改については、専門業者に依頼すれば費用もかかるため具体的方法の検討から開始し、内容充実を図る。

(2) サイトの追加

- ・未経験者向けへのわかりやすい説明文や楽しい写真を公開するなど普及委員会のページを検討する。
- ・検索に対する施策を具体的に行う。

議題 6 総務委員会 高山理事

(1) 会員登録

- ・昨年度 2015 年会員、394 名、オペスタ 150 名であった。
- ・今年度 2016 年度は 5 月末締め切りにて会員募集を開始し、事務処理が集中。

(2) 報告事項

- ・OP 全日本カップの受賞者名の刻印を行い福岡全日本大会での返却を依頼。

- ・ JODA 主催の東日本大会海面（E 海面）を相模湾レース海面予約にて確保。
- （３）問い合わせ対応状況
- ・ 自治体教育委員会からの OP レースに関する問合せ、オペスタ、JSAF 会員等への問合せ、海外レース案内を実施した。
 - ・ JSAF 会員登録、クラブ連絡者の変更などの手続きを行った旨報告があった。

議題 7 会計報告 服部理事

- （１）10/1~2/29 の一般会計について
- ・ 収支報告について詳細報告があった。
 - ・ 経理処理に関してフォーマットの合理化と監事による都度監査を行っている。
 - ・ 監事による経過監査、理事会での定期報告など順調に処理されている。

議題 8 50 周年記念準備状況 田中理事長

- （１）記念大会
- ・ 会場の候補地含め各方面の協議を進めている。選手権運営については該当の運営ホストクラブにお願いする予定。
- （２）記念事業
- ・ 記念事業については JODA 中心に進めていくこととするが、担当理事を決定し OB の協力も得て進める。
 - ・ 過去大会レース結果の収集をレース委員会中心で進める。各理事の保有するデータや OB 関係にも声をかけてデータ蓄積を進めており、継続して行う。
- （３）海外招待選手
- ・ 記念大会でもあり海外選手の招待を検討していく。チャーター体制、選手数の問題もあるため、受入れ態勢の確保が課題。
 - ・ ホストクラブの負担もあるため受け入れる方針とするが、体制確保した上で対応する。

議題 9 その他議題

- （１）JODA 名誉会員、顧問等の人選提案
- ・ 50 周年を控え、多方面への協力要請が必要である。過去の協会役職の方々に役職就任の要請を行い協力を得たので、上記役職就任と人選を行ったらどうか。
 - ・ 規約には記載されているが、現在は就任なし。今後検討していくこととした。
- （２）全日本大会の見直し
- ・ ホストクラブ候補を多く募集するために①クラブ委託方式②JODA 直轄+ホストクラブ協力の 2 パターンとすることはどうか。費用分担についても再考する余地があると思われるかどうか。
 - ・ 過去 JODA にて全日本の受付手配を行い、ホストクラブへ委託していた。会員の減少に

より協会運営費削減、理事の減少により現在の形式となった。今年度の実施方式は決定しているが、理事より各種意見があったため、委託方法・費用の検討が必要として継続検討することとした。

(3) 全日本参加料見直し

- ・ OP 全日本についても一定の運営レベルは保持しなければならないが、コンパクトにする方法を検討すべきとの提案があった。
- ・ 全日本大会は、高レベルの運営が要求されるため一般の大会に比べ参加料は高額となっている。他艇種参加料は OP 級と大幅な乖離はないと思われる。
- ・ OP 全日本大会には多くの運営スタッフがかかわっており、ボランティアも多い。参加料の下げは運営ホストクラブの負担が大きくなることが予想され、全日本大会の引受にも影響するため現状の参加料で据え置くこととした。

(3) 大会枠申請料について

- ・ 地区大会の運営予算は参加料で行われており、参加人数が少ないレースであれば収支は苦しい。その中で、全日本大会の枠申請料を支払うことはどうか。
- ・ 大会枠の費用は全日本に参加する申請料であり、枠付きレースとなることでレースレベルの維持（参加艇数・クラブ数）を確保できているものと考えている。
- ・ レース運営収支については、各ホストクラブが工夫して行っていると思われる。なんとか調整を図って進めてほしい。
- ・ 各協議を行った結果、現状方針にて行い特段の問題が発生した場合検討することとした。

次回理事会を平成28年5月21日予定とした。

以 上

議事録確認理事 東日本水域 山田理事
 西日本水域 青野理事

作成 岡田